

日本原子力研究開発機構（JAEA）から受け入れた被ばく作業員の
その後の状況について

1. 患者さんの治療状況

- (1) 6月7日に JAEA から患者さんを受け入れ、量研放医研の緊急被ばく医療施設で体表面汚染の確認と除染を実施した後、入院。
- (2) DTPA(注1)治療、および線量評価のための肺モニター計測と、バイオアッセイ(注2)を開始。
- (3) 6月10日、当初予定していた DTPA 治療の1クール目の措置が終了し、患者さんの容態に特段の変化がないことを確認。
- (4) 6月11日以降、患者さん、およびご家族に診察と検査結果を説明した。

2. 検査結果（途中経過）

- (1) 6月7日に受け入れた後、直ちに体表面汚染の計測を実施した結果、5名中4名の体表面汚染を確認したので除染を実施し、ほとんど除染することができた。
- (2) 肺モニターの計測は、受け入れ以降、3～4回実施。全員、いずれの回の計測からも、プルトニウムについては明確なエネルギーピーク(注3)を確認できなかった。アメリカシウムについては、計測データからエネルギーピークを確認した方がいるが、そのレベルは減少している。
- (3) 排泄物を用いたバイオアッセイは測定に時間がかかるため、継続して実施中。

3. 量研放医研での今後の対応

- (1) 退院後は、外来での診察と検査結果の説明を行う。
- (2) 線量評価の結果、必要と判断された場合は、再入院の上、2クール目のDTPA治療を行う。

用語解説

注 1

DTPA

ジエチレントリアミン5酢酸（英語名：Diethylene-triamine-pentaacetic acid）。

体内に取り込まれたプルトニウムの体外排泄を促す効果があるとされる、キレート剤と呼ばれる薬剤。プルトニウムを積極的に排出し、内部被ばくの量を減らす効果が期待される。

注 2

バイオアッセイ

個人の被ばく線量評価のため、尿、便など人体からの排泄物中の放射性核種の放射能を分析する方法。

注 3

エネルギーピーク

放射性核種の種類や、その放射能を求めるための γ 線やX線のエネルギー分布を測定する際に、その放射性核種に固有なエネルギーのピークとして観測されるもの。

肺モニターにおいては、放射性核種ごとに特有のエネルギーがピークとして観測される。

(別紙)

体表面汚染検査結果

平成29年6月12日
量子科学技術研究開発機構

測定器:Aloka TCS-232

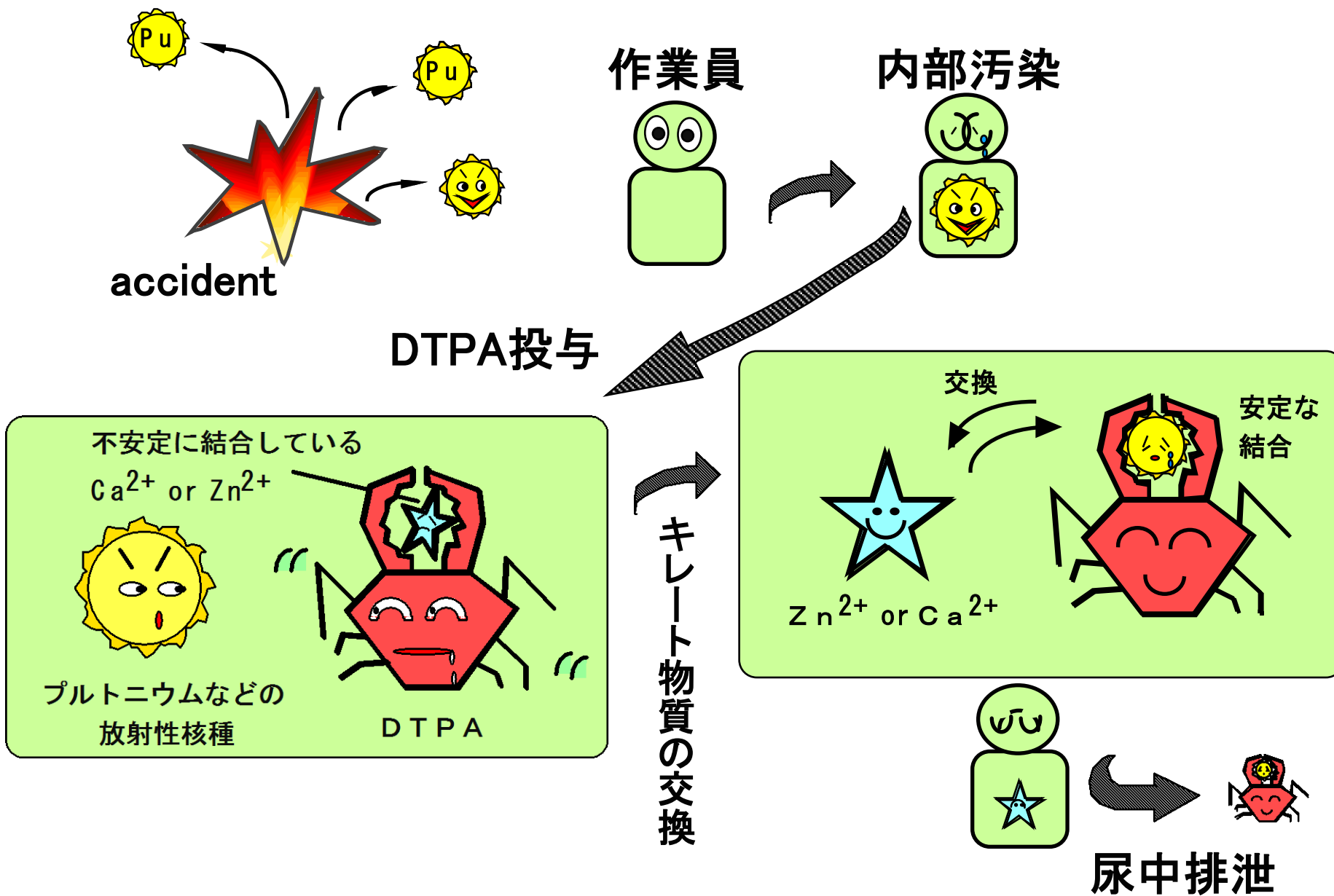
単位:cpm

	主な汚染部位	1日目(6/7)			6日目(6/12)
		最初	ふき取り後	シャワー後	
1	下あご	140	80	23	汚染なし
	左あご	105	58	20	
	右あご	30	15	0	
	首まわり	37	13	5	
	鼻まわり	22	22	8	
	右腕	7		0	
	左手	7		0	
2	額	80		15	汚染なし
	こめかみ	40	0		
	右ほほ	40		0	
	鼻まわり	20	0		
	首まわり	20		10	
	胸	20	20	0	
	手のひら	15	0		
	右手	15	0		
	左手	10	0		
右足裏	20	0			
3	右こめかみ	5	0		汚染なし
	右首	5	0		
	左胸	10	0		
	背中	5	0		
	右手	2	0		
4	右あご	10		0	汚染なし
	右首	20		0	
5	汚染なし				汚染なし

肺モニタ一



DTPAによるプルトニウム除去のメカニズム



Diethylenetriaminepentaacetic acid (DTPA) (ジエチレントリアミン五酢酸)

ペンテト酸カルシウム三ナトリウム
(ジトリペントートカル静注1000mg)



ペンテト酸亜鉛三ナトリウム
(アエントリペントート静注1055mg)

